No.181
2017.
10.31

岐阜の博物館

編集兼発行：岐阜県博物館協会
〒501-3941
関市小屋名（岐阜県博物館内）
TEL：0575－28－3111
FAX：0575－28－3110

岐阜市科学館展示リニューアル

岐阜市科学館　館長　小森　龍二

岐阜市科学館は、岐阜公園に昭和30年に開館した「岐阜市児童科学館」を前身とし、昭和32年には岐阜県で第一号の登録博物館、昭和55年に現在の地で「岐阜市少年科学センター」として開館、その後、プラネタリウムを併設したのを機に、名称を「岐阜市科学館」と改称して現在に至っています。

平成26年度からは「科学館サイエンスミュージアム整備事業」を進めて常設展示室の大幅な展示更新を行い、昨年５月１日にリニューアルオープンを果たしました。「体で実感、心が感動、科学館」をコンセプトに基本設計から実施設計を行い、最新の科学技術をふんだんに取り入れ、科学する心や創造力を育み、楽しく科学を学べる、これまで以上に参加体験型の科学館として生まれ変わりました。

科学とは自然界の事象について、なぜという疑問を持ち、仮説を立て、観察や実験を通して結論を導く学問です。そのため、探究心や創造力が重要となります。つまり、知識だけでなく、考える力を必要とする学問だと言えます。

現在は情報化社会で、インターネットを使えば簡単に知りたい情報が手に入ります。しかし、科学に興味関心を持ち、科学を楽しいと感じ、科学の本質を身に付けるには実体験が必須です。実験・観察が伴わない理科教育は単に知識の受け売りであり、考える力を養うことはできません。まさに、現在のつめこみ型受験勉強がそうです。今こそ科学教育によって思考力を伸ばしていくことが必要なのではないでしょうか。

今回の新展示装置には、「キネクト」というセンサがいくつも使われています。これが人間の動きを認識し、その動作に合わせてモニター内のロボットを操作したり、ドローンを操縦したりします。また、自分のジャンプする様子を撮影して、いろいろな惑星でのジャンプを再現し、地球との重力の違いを体感します。他に、豊かな岐阜の自然を映像で再現して、そこにいろいろな生物等をタブレットで探し出す展示もあります。

さらに、科学に関する展示装置のほか、サイエンスショーができるスーパー理科室を設置しました。科学館の職員が観客と一緒になって規模の大きなサイエンスショーを実演するもので、巨大空気砲や静電気、液体窒素などを使った、学校ではできない科学実験を楽しく体験してもらっています。

今回のリニューアル以降の年間入館者数は、過去５年間の平均と比較して４割強の増加となりました。入館者からもたいへん良い評価をいただいており、今後も、いつ来ても新たな発見があり、何度も来たくなる魅力あふれる科学館を目指していきます。

こうした科学館での体験をきっかけとして、子どもたちが科学への興味関心を高め、また、理科好きな児童生徒にはより高度な科学体験を提供して科学リテラシーの涵養を図り、将来の日本の科学技術を支える科学リーダーに育ってくれることを期待し、さらには岐阜市が掲げる「岐阜っ子からノーベル賞を！」の合言葉が、ゆくゆくは実現することになればと夢を描いています。

スペースアイ

平成29年度岐阜県博物館協会通常総会

期日：平成29年５月28日（日）
場所：岐阜県博物館　けんぱくホール
参加人数：32名

平成29年度岐阜県博物館通常総会が、平成29年５月28日に岐阜県博物館けんぱくホールで開催されました。

若宮多門会長の挨拶に始まり、平成29年度の功労者として、岐阜県現代陶芸美術館の花井素子さんが表彰を受けられました。花井学芸員は、平成11年度から岐阜県現代陶芸美術館の開設準備に携わり、同館が平成14年に開館して以来、主に同館で陶芸に関する美術館業務を担当されました。このほかに作品保存の担当を続け、IPM（総合的有害生物管理）も導入しながら、管理を続けられました。このような地道な学芸業務の継続が評価され、今回の表彰となりました。

次に来賓を代表して、岐阜県環境生活部県民文化局の桂川淳局長よりご祝辞を頂きました。このあと、新会員として、杉原千畝記念館が紹介されました。

議事は、役員の補充、岐阜県博物館協会規約の一部改正、平成28年度事業報告と収支決算報告、平成29年度事業計画と収支予算が原案通り承認されました。

一部改正した規約の概要は、下記の３点です。

①地区単位で自主的な活動ができるように地域ブロック部会を設ける。

②岐阜県博物館協会創立50周年事業企画委員会の各部会の活動を継承し、ミュージアムレスキューなど社会的な課題への対応や研究部門の充実を図るため、専門委員会を改組し、専門部会（もの部会、ひと部会、こと部会）を設ける。

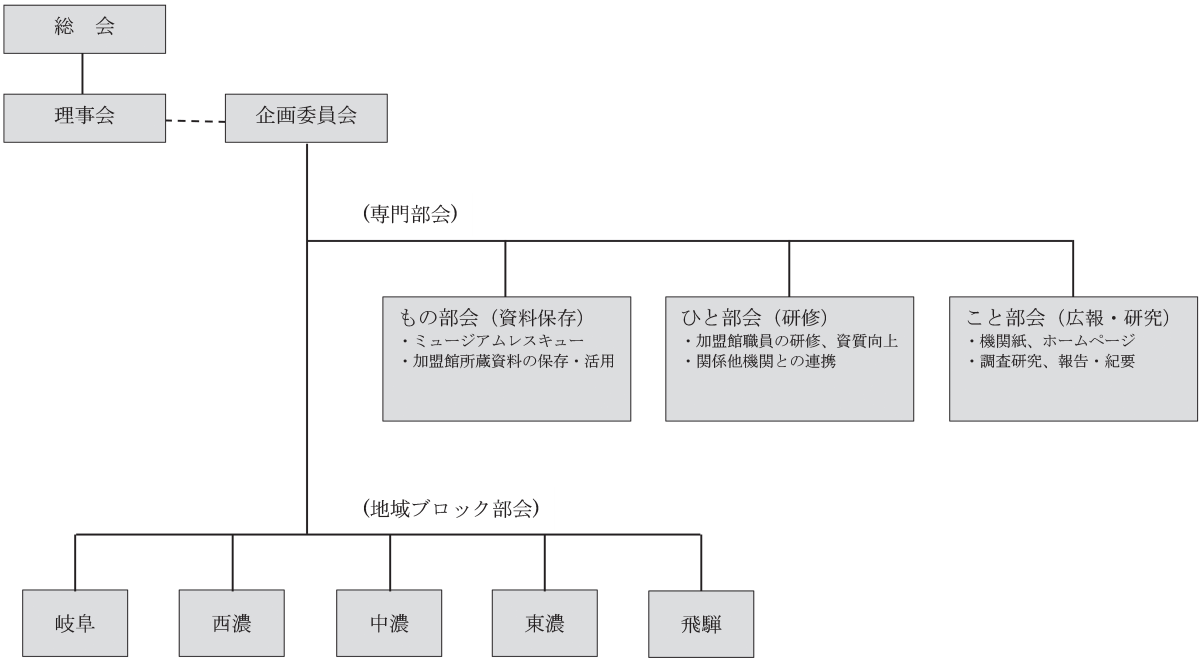
③理事会と加盟館を実質的につなぐ組織として、企画委員会を設ける。

以上のように、組織を見直し、それに伴う所要の規定整備を行うため、関連する規約を一部改正しました。

平成28年度は、通常の事業に加え、創立50周年記念事業費（ミュージアムスタンプラリー等消耗品費、創立50周年記念会場使用料など）が計上され、企業等の助成などを得て執行されました。

平成29年度の事業は組織改正に伴い、活動形態が変わることから、新たに地域ブロック活動費、研究助成費、資料保存調査研究費等が予算に計上されました。また、ミュージアムスタンプラリーは、平成29年８月まで継続し実施することになりました。あわせて、東海大会、全国博物館大会への参加についても継続して実施し、助成することとしました。

（岐阜県博物館協会事務局）



協会新組織の動き

今年度、岐博協の組織が大きく変わりました。より活動が活発になるように「もの」「ひと」「こと」の専門部会と５つの地域ブロック部会ができました。みなさんが問題意識を持って、立場や肩書きではなくよりオープンに参加できるように考えられたものです。

その中で「地域ブロック部会」は、博物館がそれぞれの地域に根ざすものだという理念に立つものです。県全体の支部を作るのではありません。参加することの「メリット」はありますか？って疑問があるかもしれません。今の業務にすぐに役立つことはないでしょう。所属館の来場者が急激に増えることはないでしょう。しかし、近くにある博物館に働くみなさんが、日ごろの悩みや課題を出し合い、それが解決とはならなくても、何かのヒントになりお互いに心強く感じるとなれば、それが本人のモチベーションとなって、当面する問題にも向かっていけるのです。地域ブロックの自由で自発的な発想、そしてそこから生まれる新しい取り組みや事業と連帯感は、地域や協会全体の何かしらの発展につながると考えます。

目に見える動きとしては、中濃ブロック部会が去る６月30日（水）に立ち上がり、個人会員や非加盟館も含めて15名が集まりました。まずは顔合わせでしたが、それぞれの館の実情を知り今後の計画の話し合いがされました。８月30日（水）には、その第２回が開かれ、12月上旬に郡上地区の施設見学、来年３月頃には、富加町でミュージアムツアーを開催する計画が協議されました。岐阜地区など他の地域でも10月から11月にかけて発足が予定されています。

中濃ブロック部会（６月30日美濃加茂市民ミュージアム）

（美濃加茂市民ミュージアム　可児光生）

平成29年度県民文化講演会
岐阜の自然の豊かさと植物たちの知恵

期　日：平成29年５月28日（日）
会　場：岐阜県博物館けんぱくホール
参加者：78名
講　師：多田　多恵子（植物生態学者）

今年度の県民文化講演会は「岐阜の自然の豊かさと植物たちの知恵」と題し、東京在住の植物生態学者・多田多恵子氏のお話でした。

講師の多田氏は、2011年に美濃加茂市民ミュージアムでご講演された縁をきっかけに、以後 毎年、植物観察会や植物調査などで、岐阜県の中濃地区から東濃地区を訪れていること、関東とは異なる植生や環境に高い関心を抱き、毎回の訪問を楽しみにしているとのことでした。

講演の冒頭では、氏が採集してきた３種類の植物の葉が来場者に配られました。「実物を観ながら」という博物館らしい講演の始まりでした。それらの植物を使いながら、視覚に頼るだけでなく、他の五感、例えば指先や鼻を使って「観る」ことから得られる情報の多いこと、その方法によりさらに対象を深く知ることができることに触れられました。またこれまでの県内での調査で出会ったサツキツツジなどの渓流沿いの植物やトウカイコモウセンゴケなどの湿地性の植物などについて、スライドで紹介。海のない、内陸地ならではの厳しい環境の中で生き抜く、植物たちの工夫についても触れられました。私たちにとって、当たり前に身近にある植物が、この地域ならではの貴重な種であることも強調されました。また動物と植物の生きていくための駆け引きや関係性が、動植物の形態の特色にも現れると具体例を挙げて指摘しました。

これからの野外散策や観察の時に、どのような動物や植物の工夫があるのか、「観る」ことが楽しみにつながる時間となりました。

（美濃加茂市民ミュージアム　西尾　円）

第147回 公開講座

連続講座「島崎藤村『夜明け前』を読む」

期　日：平成28年４月23日（土）
　　～平成29年３月18日（土）11回
会　場：馬籠集会所
参加者：のべ205人
講　師：鈴木昭一（藤村記念館館長）

藤村記念館は平成17年に、旧長野県山口村が岐阜県中津川市へ越県合併したことに伴い、岐阜県博物館協会へ加入しました。「島崎藤村『夜明け前』を読む」連続講座は平成19年４月12日に第１回目を開催し、平成29年８月19日まで、毎月１回（１月は休講）開催し、すべてでなんと114回開かれました。

講師は当館館長の鈴木昭一先生です。鈴木先生は元藤村学会会長で現在は名誉会長であり、また、帝塚山大学名誉教授でもあり、藤村の『夜明け前』研究の第一人者です。

島崎藤村の晩年の大作『夜明け前』は、ここ馬籠宿を舞台として、藤村の父島崎正樹をモデルとし、幕末から明治の日本の激動と、その中で父正樹が、失意のうちに狂死していく様子が描かれています。ですから島崎藤村の最高傑作『夜明け前』は、まさにふるさとに郷土に密着した小説であると言いきれます。

講義では鈴木先生が研究された成果を、資料をたくさん準備され、しかも、藤村が『夜明け前』を書くために使用した原資料にまでさかのぼる詳しい内容となりました。受講者は『夜明け前』をさらに深く理解するとともに、この講座をつうじてふるさとの生んだ文豪島崎藤村を再認識し顕彰することにもつながりました。

島崎藤村は今までは「信州の藤村」と言われてきましたが、岐阜県に合併し、その小説の雄大なスケールからも「日本を代表する文豪」という表現が最も適切と言えます。

（一般財団法人藤村記念郷　理事　齋藤　稔）

第92回会員研修会

期　日：平成29年２月24日（金）
場　所：岐阜県現代陶芸美術館
参加者：25人
講　師：内田剛志（早稲田システム開発株式会社代表取締役）、西岡貞一（筑波大学教授）

「ミュージアムITの将来像」と題された本講演会では、早稲田システム開発㈱の内田氏と筑波大学の西岡氏にミュージアムのIT対応についてご講演いただきました。まず、西岡氏からはミュージアムにおける映像の活用の重要性についてお話がありました。近年「Bring Own Your Device」（鑑賞者の所有するデバイスを活用して鑑賞のサポートとなる映像・資料を提供する）という考え方が広まってきており、また映像制作もスマホやPCを使って手軽に行えるようになってきていることから、ミュージアムも積極的に映像資料の制作・提供を行っていくとよいということについて、実例を交えながらお話していただきました。また、内田氏からはデジタルアーカイブの重要性とその活用方法について、具体例を交えてご教示いただきました。現状、国内では所蔵資料を紙媒体もしくは表計算ソフト等で管理しているミュージアムが８割程度を占め、専用データベースを導入しているのは約２割とのこと。東日本大震災で被災したミュージアムのお話なども踏まえ、画像を含めた資料情報をデジタルで残すことの意義を改めて実感しました。

人手や予算の確保など、さまざまな制約のある中でいかに効率的にお客様への情報提供を行うか、ミュージアムの財産である所蔵品の情報整理を行うか、改めて真剣に検討する必要があると感じました。

（中山道美術館　中村　香織）

館・園紹介　No.163

瑞浪市陶磁資料館

〒509-6132　瑞浪市明世町山野内1-6
TEL 0572-67-2506　FAX 0572-66-1083
URL http://www.city.mizunami.lg.jp/docs/2014092923046/

当館は昭和55年（1980）4月に東濃西部広域行政事務組合の運営による「東濃西部歴史民俗資料館 瑞浪陶磁資料館」として開館し、その後、収蔵品と施設が瑞浪市に移管されて、平成19（2007）年４月から瑞浪市の単独運営による「瑞浪市陶磁資料館」として再スタートしました。

そして昨年、瑞浪市出身の陶芸家で、国重要無形文化財「瀬戸黒」保持者（人間国宝）である加藤孝造先生から、60点余の陶芸作品・絵画をご寄贈いただくこととなり、これら貴重な作品を常時展示するため、企画展示室の改修（照明のLED化、小型免震台の導入、防犯カメラの更新、防犯フィルム貼り、壁紙の貼り替え等）を行い「加藤孝造展示室」を開設すると共に、常設展示室に企画展示コーナーを新設しました。

11月３日～12月11日には寄贈作品と展示室を公開するための特別展を開催し、展示作品を掲載した図録も刊行しました。展示室では常時10点程の陶芸作品と数点程の絵画を展示し、随時入れ替えを行っています。

加藤孝造展示室の展示風景

なお、本改修工事にあたり岐阜県から清流の国ぎふ推進補助金、丸沼芸術の森（埼玉県朝霞市）の須崎様から多額の寄付金をいただきました。

（瑞浪市陶磁資料館　砂田普司）

談論風発（協会員のリレートーク）

協会員の話題の中からヒントが見えてくる

岐阜大学教育学部郷土博物館　受け継がれる『地×知のアーカイブ』へ

岐阜大学 教育学部　須山 知香

岐阜大学教育学部には、植物標本が約８万点保管されています。なかには、岐阜県植物誌調査会が現在編纂している「岐阜県植物誌」の基礎的情報となる証拠標本も多数あります。岐阜大学へ赴任し、教育学部の自然史・人文両分野の標本庫と博物館施設運営を預かることになって以来、これまで受け継がれてきた大切な資料たちを今後いかに守り伝えてくのか、思い悩む日が続いています。

由緒ある郷土博物館なのですが、学部内の教員ですら「あの場所は一体何なのか、まったく知らない」という方が少なくありませんでした。これはなんとかしなければと、まずは学内向けの内覧会やナイトミュージアムを企画し、大学シンポジウムでは有志学生と共に‘植物標本の展示作製実演会’を開催、そして学部一丸となり大学本部へ向けての企画書・意見書・予算書等々を山程（いま積み上げて測ったら8.9㎝）作成してきました。

その甲斐もあって、今年度より、岐阜大学創立70周年プロジェクトのメイン事業として「学術アーカイブズ整備事業」が全学的にスタートする運びとなりました。これからの私たちの課題は、これを‘お金を掛けた70周年記念の単発イベント’に終わらせることなく、学内に点在している歴史的・学術的・美術的資料等を、適切に管理し活用する永続的組織をたちあげること、そして学術拠点である大学の使命として、地域との連携を推進していくことと考えています。

「もの」、「ひと」、「こと」の、幸せなつながりを目指して活動していきたいと思っておりますので、これからの岐阜大学学術アーカイブズを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

郷土博物館　2016年度岐大祭一般公開およびナイトミュージアム展示の様子

図書紹介

会員のお薦め図書

サイエンスワールド　館長　飯尾　正和

「物理が明かす自然の姿 ー奥底を訪ねる軽いジョギングー」

徳島大学名誉教授　日置　善郎
発行　吉岡書店

「高校時代に最も苦手な科目は何か、を調べると断然トップは“物理”となります。」と言っている私は高校の物理の教師でしたので何となく責任を感じますが、物理が好きな生徒はたくさんいました。この本の著者である日置善郎君もそんな生徒の一人でした。彼は物理学をこよなく愛し、「現代の科学技術のほとんど全ての基本となっている“物理学”という学問の素晴らしさを少しでも多くの人に知って欲しい」との願いで本書を書きました。

一般に物理学の本を開くと“数式”が多く途端に読む気がしなくなるが、彼はマラソンを趣味としているので、最初からフルマラソンに挑戦すると直ぐ挫折するが、ジョギングなら誰もが楽しく続けられる……そんな発想からこの本は書かれており、読者も軽い気持ちで楽しく物理学を知ることが出来る素晴らしい本です。18世紀末、大物理学者が「物理学で自然界は完全に解明され快晴の天空になったが、西の山に小さな雲が２つある。それも間もなく霧散するであろう。」と述べたが、19世紀になった途端、その２つの雲が大きな嵐を呼び、それまでの「古典物理学」を根底から覆して、プランクやアインシュタインによる量子論と相対性理論を中心とした「現代物理学」へと物理学は大きく変貌し発展しました。

本書は、古典物理学から現代物理学への推移の話から難解な量子論と相対性原理を、まさにジョギング的に数式をほとんど使わずに話し言葉の口調で身近な自然現象を随所に取り入れながら分かり易く書かれています。物理学に少しでも興味関心のある方、“頭のジョギング”として本書を読んでは如何ですか。

また、当館では平成30年１月７日（日）に「サイエンスセミナー」を行い、光についての分かり易く楽しい物理学講座を開きます。本書を読むと共にセミナーに参加すると物理学が何となく分かったような満足感が味わえることでしょう。サイエンスセミナーについてはＨＰをご覧ください。

博物館協会インフォメーション

博物館協会ホームページについて ～第一回こと部会議事録から～

みなさんは博物館協会のホームページをご覧になったことはありますか。それぞれの館で自身のホームページの充実に尽力されていると思いますが、協会のホームページを見たことがない方も多いのではないでしょうか。平成29年７月20日、美濃加茂市民ミュージアムで、第１回こと部会が開催され、協会ホームページについて議論しました。スマホで見やすく、アクセス数を把握しやすくなど技術的な課題もありますが、魅力あふれるホームページにするためには、会員のみなさまの協力がぜひとも必要です。組織改正に伴い、専門部会や地域ブロック部会など、新たな活動も始まります。これらの活動記録などを積極的にホームページのトピックなどに寄稿してくだされば と思います。また、この機会にホームページをご覧いただき、改善点なども協会事務局までお知らせ願えればと思います。同時に、館が行う研修会の他館参加のお誘い情報・博物館等に関する講演会の情報・行事等の運営やマネジメントに関する研修会報告、等々の情報の掲載依頼についても、受け付けていますので、各月20日までに協会事務局（gpma@mopera.net）までメールにて連絡ください。

岐阜県博物館協会創立50周年記念事業「ミュージアムスタンプラリー」が終了

岐阜県博物館協会では、創立50周年を記念して、県内各地のミュージアムを周遊して、歴史・民俗・芸術・自然科学など様々な資料に触れていたくことを目的に、平成28年７月16日（土）から平成29年８月31日（木）まで、ミュージアムスタンプラリーを開催しました。その結果、54館全館観覧を達成されたのは４名でした。

編集後記

協会の組織改正に伴い、編集作業が遅れましたが、何とか協会機関紙No.181号を発行することができました。この機関紙が、会員相互のつながりを強め、各館の活性化への一助になればと思います。次号も引き続き会員の声を記事にしていきます。皆さんからのご意見やご感想をお待ちしております。